

セネガル・リフトバレー熱流行：最終報告

日本人旅行者・在留邦人・家畜専門家向け

2026年2月4日

流行の終結宣言

セネガル保健省は2026年1月26日付で、リフトバレー熱（RVF）・デング熱対応のための緊急オペレーションセンター（COUS）を正式に廃止しました。これはセネガル北部サンルイ地域で2025年9月に始まった流行が、公式に「制御下にある」と判断されたことを意味します。

2025年10月1日の起動以来、COUSはWHO・FAO・WOAHと協力し、大規模なワクチン接種キャンペーン、21,000件以上の検査、監視体制の強化を展開。累計563人の感染確認、31人の死亡（致死率5.5%）が報告されました。直近1月では新規症例わずか2例と、流行は著しく減少しています。

現在の流行状況

最新データ（2026年1月26日時点）：

- 確定症例：563人
- 死亡：31人（致死率5.5%）
- 新規症例：直近15日間ほぼゼロ
- 家畜感染例：446頭（ワクチン接種により新規症例ゼロ）
- ワクチン接種動物：55,691頭

サンルイ地域は2026年1月10日に終息宣言し、監視下の患者ゼロとなりました。現在は乾季で蚊の活動が低調であり、感染リスクは著しく低下しています。

一般旅行者向け

渡航判断：可能です

結論：サンルイを含むセネガル北部への渡航は安全です。入境自粛の必要はありません。

COUS廃止により、セネガル政府は流行の制御を確認しました。

ただし、以下の予防措置は引き続き重要です：

必須予防策：

1. 蚊刺され予防（最重要）

- ディート30%、イカリジン15%の忌避剤を常時使用
- 長袖・長ズボン・靴を着用
- 宿泊施設は蚊帳または空調完備
- 夕方～早朝の屋外活動を最小化

2. 家畜接触回避

- 牧畜地帯・家畜市場への立ち入り禁止
- 動物の血液・体液への接触厳禁

3. 食品衛生

- 生乳は絶対摂取禁止（加熱殺菌済み製品のみ）
- 肉類は十分加熱調理されたもののみ摂取

4. 症状監視

- 発熱・頭痛・筋肉痛出現時は即座に医療機関受診
- 帰国後2週間は症状監視継続

在留邦人向け

サンルイを含む発生地域に住む場合、上記の蚊刺され予防と家畜接触回避は継続してください。

必要な登録：

- ・ 3ヶ月以上滞在は「在留届」提出
- ・ 短期滞在は「たびレジ」登録推奨

COUS廃止によっても、セネガル保健省は「すべての関係者に対し疫学的監視・予防・準備体制の強化を継続するよう招請」しており、平時の監視体制は維持されます。

家畜関係専門家向け

現地入りは可能

ワクチン接種技術者、獣疫学者、家畜保健専門家など、RVF対応に従事する専門家の現地入りは社会的に有意義です。セネガル政府はWHO・FAO・WOAHの協力継続を明記しており、専門家支援ニーズが残存しています。

渡航前の準備

健康・安全：

- ・ 渡航医学専門医による健康診断
- ・ 黄熱、A型肝炎、腸チフスワクチン確認
- ・ 海外旅行保険加入（医療搬送特約必須）

訓練・装備：

- ・ RVF感染予防専門訓練受講
- ・ PPE（手袋・ゴーグル・マスク・防護服）
- ・ 消毒薬・応急処置キット・忌避剤

現地活動中の対策

動物接触時：

- ・ 血液・体液接触時は必ずPPE完全装着
- ・ 流産動物・死亡動物は慎重に取り扱い
- ・ 作業後の手洗い・消毒の徹底
- ・ 生乳・未加熱肉の摂取禁止

蚊予防：

- 屋外活動時は常に忌避剤使用
- 毎日の体温測定・健康チェック
- 症状出現時は即座に活動中止・受診

連絡体制：

- 事前に在セネガル日本国大使館に活動計画を通知
- 日本の所属機関と定期連絡
- 症状出現時は医療機関受診（セネガル滞在歴申告）

帰国後の注意

2週間の症状監視を継続し、発熱などが出現したら医師に「セネガル滞在歴」を申告してください。

経済・社会への影響

家畜損失： 流産2,026件、確定例446頭。セネガルは年間30万頭の羊を輸入しており、RVF損失は全体供給の2%未満。2026年6月頃のタバスキ（羊の祭）への影響は限定的です。政府は輸入時の健康監視を強化しています。

ダカール都市部への拡大： わずか19例で死亡ゼロ。人-人感染がなく、都市部での蚊密度が低いため、都市部への大規模拡大リスクは低いと評価されます。

今後のリスク評価

短期（2026年5月まで）： リスク低い

- 乾季で蚊が減少
- 流行は終息段階
- COUS廃止により監視体制は平時に移行

中期（2026年雨季6月～10月）： リスク中程度

- 蚊の再繁殖に伴い散発的症例の可能性
- ただし大規模流行再発は起きにくい（ワクチン接種済み家畜が多数）

セネガル保健省の方針：

「監視・予防・準備体制の強化を継続し、多部門的アプローチを維持」と明記。これはBird watch体制であり、完全な警戒解除ではありません。

まとめ

一般旅行者： サンルイを含むセネガル北部への渡航は安全。蚊対策と家畜回避で予防必須。

現地居住者： 継続的な蚊対策により日常生活での感染リスクは低い。COUS廃止後も監視体制は維持。

家畜専門家： 厳格な感染予防対策を条件に、現地でのワクチン接種・監視強化への参加は社会的に有意義。セネガル政府は継続的な専門家支援を招請。

流行の終結： 2026年1月26日のCOUS廃止により、セネガル政府はリフトバレー熱流行を「制御下」と正式判断。ただし継続的な監視と準備は平時体制で継続。